# 石川県七尾美術館だより

No.109
令和４年　春

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

展覧会情報

# 長谷川等伯展～水墨・濃淡の妙VS着色・彩りの美～

4月23日(土)～5月22日(日)　会期中無休

今年も、当館にて毎年シリーズで継続している特別展「長谷川等伯展」がやってきました。昨春は、新型コロナウイルス感染拡大によって会期途中で終了となりました。シリーズ27回目となる本年は、昨年ご来館が叶わなかった方も含めて多くの方にご来館・ご鑑賞いただきたく、3つのテーマで七尾初公開作品3点を含む18点を展覧します。

長谷川等伯（1539～1610）は能登国七尾出身で、桃山時代に活躍した絵師です。能登時代は信春の名で、絵仏師の仕事を中心に活動。30歳を過ぎて活動の舞台を京都に移します。京都では錚々たる人脈を得て長谷川派を築き、狩野派に対抗して豊臣秀吉の御用や大寺院などの仕事を次々と手掛けて活躍しました。

代表作の国宝「楓図壁貼付」（京都市・智積院蔵）、国宝「松林図屏風」（東京国立博物館蔵）を筆頭に、数々の名作が知られています。

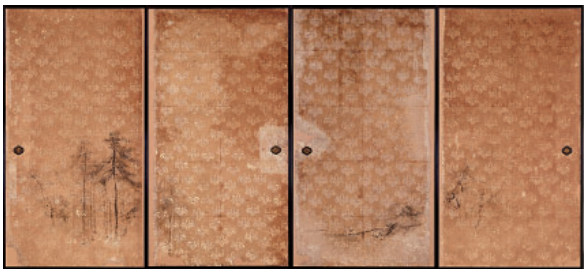
## テーマ1《水墨・濃淡の妙》

能登時代の等伯の仕事は、着色の仏画が中心でしたが、中国の絵画に学んだ水墨の「山水図」なども描いています。また、上洛後は禅宗寺院から水墨画の依頼が続き、様々な画題を精力的に手掛けました。

ここでは、水墨の濃淡や線描の使い分けによる妙をご覧ください。

**①北陸初公開！**

**「松林架橋図襖」4面**
**長谷川等伯筆**
**天正17年（1589）**
**京都市・樂美術館蔵**



本図は51歳制作で、元は大徳寺塔頭・三玄院襖絵の一部です。多少傷みがあるものの、左端の松林は「松林図屏風」の左隻の松の形状と近似することから、「松林図屏風」に繋がるといわれ、注目されています。今回は、同じく旧三玄院襖絵で、現在圓徳院所蔵の32面内3面と並べて展示します。

**②◎「列仙図屏風」6曲1双（左隻）**
**長谷川等伯筆　桃山時代（16世紀）**
**京都市・壬生寺蔵**

両隻に仙人を描いた6曲1双屏風のうち左隻です。潤いのある50歳代の秀作で、墨の濃淡、人物と樹木の筆遣いなどを見事に描き分けています。なお、1扇目には、かつて後桜町天皇より下賜された旨の、大正時代の題辞が貼られていました。

※本文中の◎は国指定重要文化財を示す。

## テーマ2《着色・彩りの美》

等伯は晩年、水墨画に傾倒しますが、実は意外と華やかな着色画や、秀吉好みの豪華な金碧障壁画も手掛けています。ここでは、信春時代の緻密な仏画や、桃山の栄華を彷彿させる、等伯時代の金碧障屏画などを紹介します。

### ③ 北陸初公開！

**「四季柳図屏風」6曲1双（右隻）**
**長谷川等伯筆**
**桃山時代（16世紀）**
**個人蔵**

金箔地に、春から冬へと季節がうつろう柳樹を大きく描いた、6曲1双屏風のうち右隻です。胡粉を盛り上げ箔押しした柴垣、風にゆれる柳の葉がなんとも抒情的です。

### ④◎「松・桜図襖」4面

**長谷川派筆　桃山時代（16～17世紀）**
**京都市・妙蓮寺蔵**

制作に、等伯が参加したとも、指導したともいわれる障壁画群のうち4面です。巨木構成で松樹と胡粉を盛り上げた桜樹を描き、金雲の間からのぞく水流が画面に奥行きを与えています。桃山時代の豪快さと華やかさを兼ね備えた大作です。なお、今回は不出品ですが、裏面には、桜と三角形の鉾杉が描かれています。

## テーマ3《長谷川派の着色・金碧画》

等伯の息子や弟子たちは、等伯に追随しながら同時代の他派の影響も受けつつ、新たな表現を模索していきました。ここでは、等伯次男・長谷川宗宅、能登の長谷川派絵師・長谷川等誉などによる、金地着色の屏風を紹介します。

### ⑤ 七尾初公開！

**「李白・陶淵明図屏風」6曲1双（右隻）**
**長谷川宗宅（等後）筆**
**桃山時代（16～17世紀）**
**京都市・北野天満宮蔵**

「李白観瀑」と「陶淵明愛菊」を基にした屏風。宗宅は等伯の次男で、作風は等伯の繊細な部分を継承、穏やかな雰囲気が特徴的です。

### ◆関連イベント◆

**長谷川等伯展特別レクチャー**《聴講無料》
日時…4月30日（土）14時より約45分
会場…当館アートホール
定員…先着20名（13時30分より整理券配布）
講師…北原洋子（当館学芸員）
※友の会会員は4月29日（金・祝）の方にお申込みください。

◇観覧料

| | 個人 | 団体 |
|---|---|---|
| 一般 | 800円 | 700円 |
| 大高生 | 350円 | 300円 |

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

# 第78回現代美術展　七尾展

6月3日(金)～26日(日)

桜が花咲かせる春もたけなわの頃、金沢を舞台に開催される「現代美術展」。石川県下では最大規模をほこる公募展です。

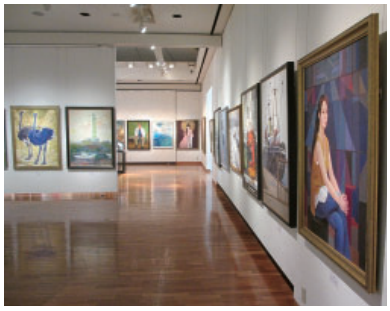
その歴史は古く「第1回目」が開催されたのは、終戦間もない昭和20年（1945）10月のこと。「美術文化の向上による新日本建設への寄与」をスローガンに、未だ戦禍の跡も生々しい混乱期にもかかわらず、約4万人という多くの観覧者で賑わい大成功を収めました。

その後も毎年継続された同展は、昭和・平成・令和と時代を経て本年で78回目。近年では「コロナ禍」の困難な状況の中、美術工芸にふれる貴重な機会を提供しています。

同展は日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の6部門構成。文化勲章受章者や日本芸術院会員、重要無形文化財保持者（人間国宝）といった現代美術界を代表する巨匠から、美術の世界に身をおいてまもない新進作家までの幅広きが出品。1，000点以上もの各種作品が、会派をこえて一堂に展示されるのが特徴です。

そして「現代美術展」は、金沢の「本展」終了後に県内5市を巡回。それぞれ地元ゆかりの作品などを選抜する形式で展示が行われます。そのひとつが「七尾展」で、当館としては開館年の平成7年（1995）に開催されて以降、今回で28回目を迎えます。

「七尾展」では「本展」出品作品より、能登地区（宝達志水町以北）在住者の入選作品を中心にセレクト。そして一般財団法人石川県美術文化協会役員、能登地区在住・出身の委嘱作家作品および、次賞以上受賞作品（次賞は一部）などとともに、力作の数々あわせて約200点を紹介します。



昨年の「現代美術展 七尾展」会場風景

◇観覧料

| | 個人 | 団体 |
|---|---|---|
| 一般 | 500円 | 400円 |
| 大高生 | 350円 | 300円 |

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

## 令和3年度新収蔵品紹介

令和3年度に当館へ収蔵された作品は左記の1点。貴重な作品をご寄附くださり、本当にありがとうございました。

**①洋画「流転 -2-」野中未知子　1面**

令和元年（2019）制作

第65回記念一陽展出品

**※野中未知子氏より寄附**

「流転　-2-」　野中未知子

淡い色彩によって奏でられる幻想世界。画面左上で輝くフクロウが、まるで「生命の尊厳」を象徴しているかのよう。

色を自在に操り、独自の画風を展開する作者らしい1点。

## 当館収蔵品貸出情報（4月1日現在）

**作品名**　彫刻「烏」　田中太郎　1点

昭和11年（1936）制作

第23回院展出品

**会　場**　石川県立美術館

（金沢市出羽町2-1）

☎076（231）7580

**展覧会**　「師弟の共演

-石川ゆかりの作家と巨匠たち-」

**会　期**　4月24日（日）～5月22日（日）

《会期中無休》

「烏」　田中太郎

しっかりと地に足をつけて前方をにらむカラス。黒く塗られた肌は黒光りし、小憎らしいまでに堂々としています。

院展に初入選を果たした、作者にとって記念碑的な作品。

## アートホール催し案内

### フルート&ピアノ デュオコンサート

5月1日(日)開演14時

入場料　2,000円

主　催　宍戸美奈子音楽教室

連絡先　✉duoconcert0501@gmail.com

### なかのと奏友会 ユーフォニアム・テューバ アンサンブルコンサート in 2022 春

5月8日(日)開演14時

主　催　なかのと奏友会

連絡先　☎090-3768-5608(荒川)

入場無料(要事前予約)

※予約は電話・SMSにて受付けます。

座席数は100席。席数に達し次第受付終了。

※新型コロナウイルスの状況により、公演内容の変更、延期や中止もあり得ますので、当会Facebookページ等で要確認。

### エレクトーンフェスティバル ミヤコ音楽堂大会&ピアノコンサート 2022

6月19日(日)開演14時

入場料　無料

主　催　ミヤコ音楽堂

連絡先　☎0767(53)0001

## 令和4年度　友の会 行事スケジュール

皆さまのご参加お待ちしております

●「美術館だより」年度内4回発行　※(　)は発行予定日

第109号〔春号〕(4/1)・第110号〔夏号〕(7/1)・第111号〔秋号〕(10/1)・第112号〔冬号〕(1/1)

●「友の会」開催予定行事

4月29日(金・祝)　友の会会員限定「長谷川等伯展」特別レクチャー　※要申込

7月30日(土)　「国立民族学博物館コレクション ビーズ―つなぐ・かざる・みせる」開会式・鑑賞 無料ご招待

10月 未定　「第23回友の会鑑賞の旅」開催予定　国立工芸館ほか金沢市内見学予定

11月3日(木・祝)　「2022 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」開会式・鑑賞 無料ご招待

※開催日程・内容等は変更または中止する場合がありますのでご了承ください。

## 能登島ガラス美術館 展覧会情報

巡回展「日本ガラス工芸協会 創立50年記念『'21日本のガラス展』」

(前期)開催中～5月29日(日)

(後期)6月4日(土)～8月28日(日)

特別展「カットガラス」(仮)

9月3日(土)～11月6日(日)

巡回展「国際ガラス展・金沢2022 in 能登島」

11月12日(土)～令和5年2月12日(日)

テーマ展「ものがたりを紡ぐ」

令和5年2月18日(土)～5月28日(日)

※展覧会の詳細は能登島ガラス美術館までお問合せください。

☎0767(84)1175

七尾美術館から車で30分!

展覧会
予　告

# 池田文夫氏の「眼」

7月2日(土)～24日(日)

「池田コレクション」は七尾市出身の実業家・池田文夫氏(1907～87)が蒐集した美術工芸品です。昭和63年(1988)、ご遺族により125点が七尾市に寄附され、当時の七尾市にはこれらの美術品を所蔵・展示する施設がなかったことから、当館が設立される大きな契機となりました。そして、平成7年(1995)に当館はオープン、「池田コレクション」は当館所蔵品の中核と位置づけられました。その後も計5回の寄附を受け、現在その数は289点となり、ジャンルは日本画・工芸・彫刻・書、時代も中世から現代までと多岐にわたっています。

本展覧会はこの「池田コレクション」より優品を幅広く紹介する展覧会です。池田氏の美術品に対する姿勢は、あれこれ難しく考えるのではなく、とにかく気に入った作品にふれることを楽しみにするものであったといいます。皆さまもお気に入りの作品を見つけ、美術品鑑賞を楽しんでみてはいかがでしょうか。

上「ノンコウ赤茶碗 銘小判」樂 道入
下「双鶴図」前田青邨
※いずれも池田コレクション

---

国立民族学博物館コレクション

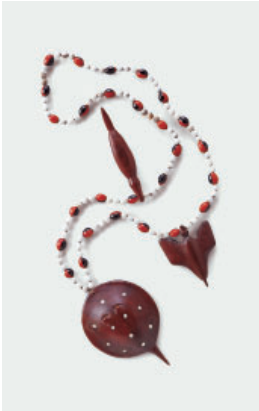
# ビーズ―つなぐ・かざる・みせる

7月30日(土)～9月11日(日)

当館春の「等伯展」、秋の「ボローニャ展」に並ぶ夏季特別展で、今回は初の民族文化に関する展示です。国立民族学博物館所蔵資料を中心に、世界の様々なビーズを紹介します。

飾り玉・数珠玉・トンボ玉などを総称するビーズ。素材は石・植物・貝のほか、動物の歯や虫の羽根など幅広く、様々な世界が作り出されます。本展では、ビーズが私たち人類の作り出した最高傑作の1つとして捉え、つなぐ・かざる・みせる楽しみをとおして世界のビーズの魅力を紹介します。

〝ビーズで世界をつなぐ〟今の時代にぜひご覧いただきたい展覧会です。



上「首飾り」(コロンビア)
左上「手袋」(アメリカ合衆国)
左下「首飾り」(フィジー)


**石川県七尾美術館だより　No.109**

発行日:令和4年4月1日
発行者:公益財団法人七尾美術財団
〒926-0855 七尾市小丸山台一丁目1番地
TEL.0767-53-1500　FAX.0767-53-6262
https://nanao-art-museum.jp


表紙

※表紙掲載は左隻の3～6扇部分。

**「四季花鳥図屏風」**(左隻)長谷川等伯筆
桃山時代(16世紀)制作　個人蔵

右隻は右から八重桜と若葉をつけた柳樹、樹下には蒲公英と菫を描き、続いて海棠や立葵に遊ぶ燕と、春から夏の景色が展開する。左隻は右から柴垣に囲まれ長く葉を垂らす柳樹、萩、芙蓉、さらに左には柴垣の前後に鶏頭、朝顔、紫苑、黄蜀葵、菊など、可憐な夏から秋の草花と小禽を描く。金銀の砂子と相まって、柔らかな空気感と抒情性を醸し出している。